

4.

ある対象を見たときに生き生きとした感情が揺らめきます。その感情をなるべくそのままの純粹さを損なわないように、しかもその時の対象を常識によって覆い隠さぬようにと十分に注意する必要があります。

子供は感じたものを遠慮せずに素直に発表してくれます。これは直感であります。自分の感情で傍から加えられたものと違います。

常識とか概念とか言われているものは直感と反対に他より教えられて知る一般的になったものであります。そこには生きた感情が消えて一般化し、自分でないものがのさばるのみです。

子どもの発表はただ幼稚であるが、この直感を巧妙に、強力に工夫すれば立派な作品を生み出せるのです。

ところが、常識的な、それは借り物に過ぎない内容で俳句を詠む人が多い。俳句らしい俳句を真似る人が多いと言うことを私は残念がります。自分を見出せ、それは自然を自分の心で感じ取ることにあるという訳であります。

5.

加賀の千代尼に次の朝顔の句があります。

朝顔や釣瓶とられて貰ひ水

人口に膾炙される句は「朝顔に」で、この一字の差で良い俳句と悪い俳句とに分かれることをよく注意されたいのであります。

「朝顔や」は良い俳句である。なぜならば咲いている朝顔の爽やかさを礼讃するからです。夜遊びした村の若者の悪戯で釣瓶が無くなったので仕方がなく貰ひ水をしたという意味になります。田舎の夏の朝の感じを味わいます。

「朝顔に」は悪い俳句である。偽物だからであります。なぜ偽物か。朝顔は蔓をもっているが僅か一夜では釣瓶の竿に絡みつきます。万一絡みついたらとてわざわざ貰ひ水する酔狂はしないでしょ。見せかけの通俗な風流心である。誠の詩を解せず、こんな見えすいた嘘を承知で、人口にもてはやしているのです。

俳句は自然の真実を愛します。自然に即す、「松のことは松に習えと」と芭蕉が言いました。偽風流を排斥して一番素直な心で向かいましょう。

6.

私らの作る俳句は伝統を重んじます。古来一貫した精神の良い長所を守り抜きながら、新しいものを求めようと心を砕いているのです。

古いものがよいというのではないのです。古いものがなぜ今もなお生命を保ちつづけてきたのか、そこには何かの理由が厳存しているものです。一口に言えば真理があるからで真理は永久性を具えてみだりに忘れ去られるものではないのです。

古人の跡を求めず、古人の求めたところを求めべし、と弘法大師が説かれたそうですが、伝統というものは、古人が求めてきた精神をよく考え、この精神に強く感化されながら、更にこの精神を成長させたいという熱烈な欲求に創意を発揮しようとすることで守られるものです。それ故に私らの俳句は今日の時代が反映して新しくなります。

私らの生活している周辺の自然風土、つまり神のお造りくださった自然を愛し、自分の正直な心によって自然を詠嘆する。自然を生写しに描写する。借り物でなく自分の目で心で感じ取ることが大切であります。そういう意味で、私らは新しいものを追求せねばならないと思います。